

令和6年度 北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

この調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、調査は実施教科が小学校・中学校ともに限られた教科のみで、学習指導要領の内容全てを網羅するものではありません。したがって、結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。この結果のみで、学校や児童生徒を評価できるものではありません。

また、北斗市教育委員会では、例年同様、市全体及び中規模・大規模の小中学校の調査結果のみ公表いたします。今後も、北斗市の学校は、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の整備に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

北斗市教育委員会

調査の概要

○調査実施日

令和6年4月18日（木）

○調査の対象

- ・小学校第6学年の児童
- ・中学校第3学年の生徒

○2 教科に関する調査

- ・小学校：国語・算数
- ・中学校：国語・数学

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※①と②を一体的に問う調査問題

○3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

①児童生徒に対する調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ・今年度よりオンライン方式により実施

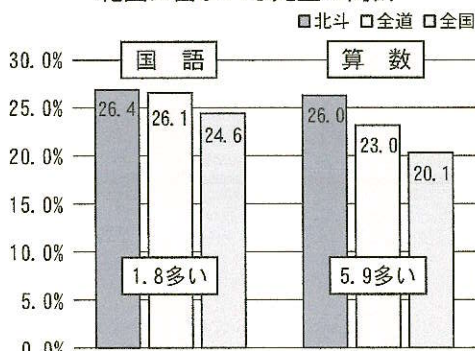
②学校に対する調査

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

小 学 校

1 教科に関する調査

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



北斗市内小学校各教科の平均正答率（%）

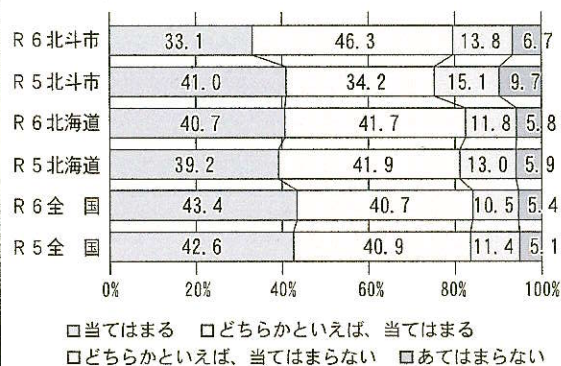
6年生 349人

	国語	算数	合計
北 斗 市	66	57	123
北 海 道	67	61	128
全 国	67.7	63.4	131.1
道との差	-1	-4	-5
全国との差	-1.7	-6.4	-8.1

※北斗市・北海道の平均正答率は国が公表した整数値

○国語・算数ともに、全国・全道平均を下回りました。昨年度と比較し、国語は差が縮まり、算数は差が広がりました。問題の分類別正答率では、国語はほぼ

①自分には、よいところがあると思いますか？



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない □あてはまらない

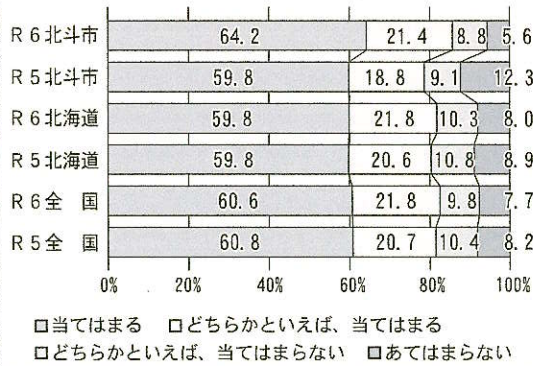
同程度または下回る項目がありました。算数は、全国・全道を下回りました。○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。今年度は、小学校では、「正答数の少ない層」が国語で1・8割、算数で5・9割、全国より多くなり、目標を達成できませんでした。

2 児童への質問紙調査

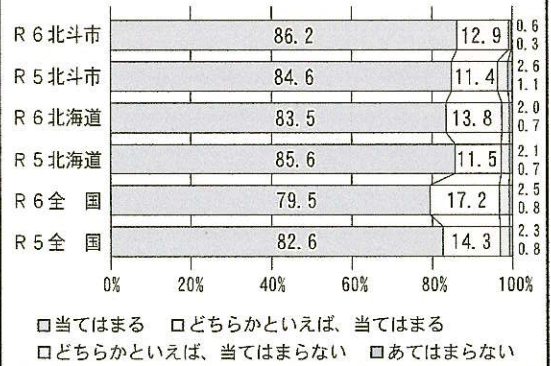
①「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えている児童の割合は33・1%で、全国・全道を下回っています。②「いじめは絶対いけない」という意識は大変高く、前年度を上回るとともに、全国・全道も上回っています。

③「将来の夢や目標を持っている」と答えている児童の割合は高く、全国・全道を上回っています。新しい時代を力強く生き抜く力の原動力になると考えます。

③将来の夢や目標をもっていますか？



②いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？

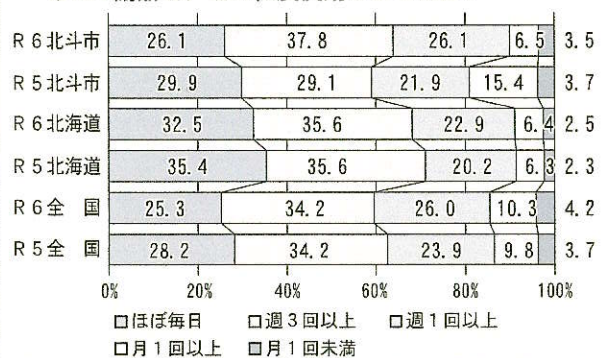


小学校4校の平均正答率（％）

	国 語	算 数	合 計
A	66	58	124
B	66	58	124
C	66	56	122
D	64	55	119

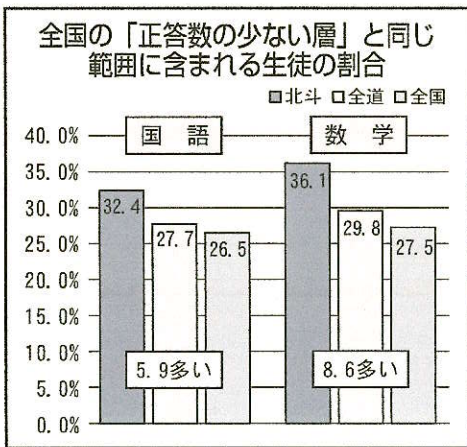
※各校の正答率は国が公表した整数値

④前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか？



確かな学力を身に付けることはもとより、多様な体験活動を通して個々の自己肯定感を高め、一人一人の可能性を引き出す教育をしつかりと進めていくことが大切であると考えます。

- ④ 普段の授業の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用している頻度（ほぼ毎日、週3回以上）は、前年度を上回るとともに、全国を上回りました。日常的に「文房具」として活用することが習慣付いていると見取れます。
- ※その他、「朝食を毎日食べている児童の割合」は、北斗市74・2％（昨年73・5％）で、全道・全国を下回りました。【北海道80・3％（昨年80・7％）、全国83・4％（昨年83・7％）】
- また、今年度の「普段（月曜日から金曜日）、一日当たり一時間以上家庭学習に取り組む児童の割合」は、北斗市49・6％で昨年度を下回るとともに、全国（54・6％）・全道（52・4％）も下回りました。
- ### 3 学力向上の取組
- 「1 教科に関する調査」「2 児童への質問紙調査」の結果を分析して様々な課題が明らかになりました。市内各小学校では、その課題や実態に応じて改善に取り組んでいます。
- #### 【課題解決・改善に向けた取組】
- ① **学習内容の確実な習得を目指して**
- ・教科担任制や少人数指導などにより、授業の質の向上を図る。
 - ・目的や意図に応じた要約文や説明文等を書く学習活動を工夫する。
 - ・「めあて」「まとめ」だけでなく、「振り返り」の時間を確保して、学びの深化を図る。
- ② **児童の学習意欲向上のために**
- ・短作文指導を行うとともに、継続的に校内掲示して、「書くこと」に対する意欲を高める。
 - ・基礎的な学力の底上げを目指し、朝学習やサボート学習・放課後学習を行う。
 - ・読書の楽しさを味わえる体験活動を実施する。
- ③ **主体的・対話的で深い学びのために**
- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題を設定する。
 - ・表現力を向上させるために、「振り返り」や「交流の時間・場」を確保する。
 - ・主体的に考え、実行できるような「学習のきまりチェックシート」等を活用する。
- ④ **ICT機器を活用して**
- ・自由進度学習を実施するなど、「個別最適な学び」を推進する。
 - ・個の理解の程度や習熟度に応じて、デジタル教科書やデジタルドリルを活用する。
- ⑤ **その他の取組**
- ・家庭学習の具体例や「チェックシート」等を提示するなど、自学自習に向けた指導を行う。
- ## 中 学 校
- ### 1 教科に関する調査
- 国語・数学ともに、全国・全道平均を下回り、昨年度より差が広がりました。今年度、英語の調査はありませんでした。



北斗市内中学校各教科の平均正答率 (%)

3年生 324人

	国語	数学	合計
北斗市	53	46	99
北海道	58	51	109
全国	58.1	52.5	110.6
道との差	-5	-5	-10
全国との差	-5.1	-6.5	-11.6

※北斗市・北海道の平均正答率は国が公表した整数値

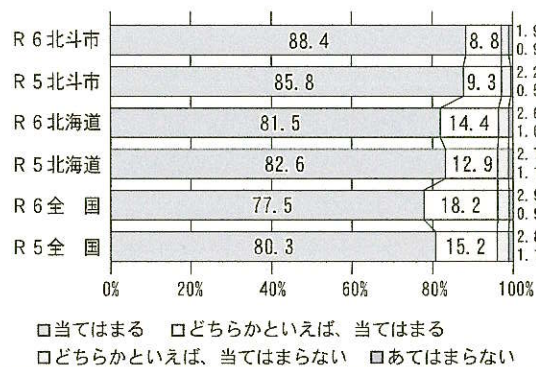
○問題の分類別正答率でも、全国・全道を下回りました。

○中学校でも、「正答数の少ない層」を減らす努力をしています。

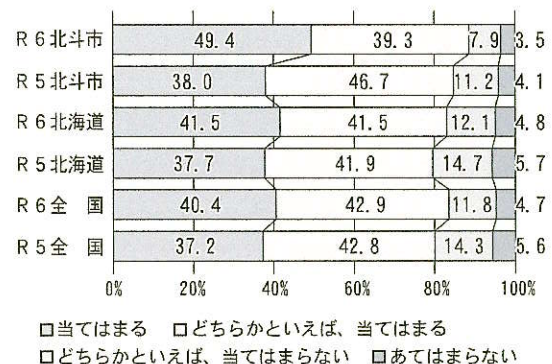
今年度は、国語で5・9割、数学では8・6割となり、全国より多くなりました。昨年度との状況と比較すると、差が広がりました。

2 生徒への質問紙調査

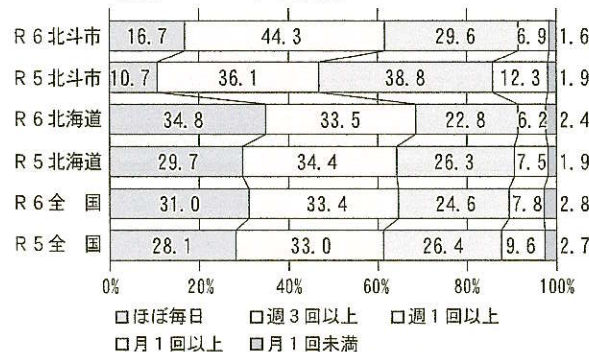
②いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか？



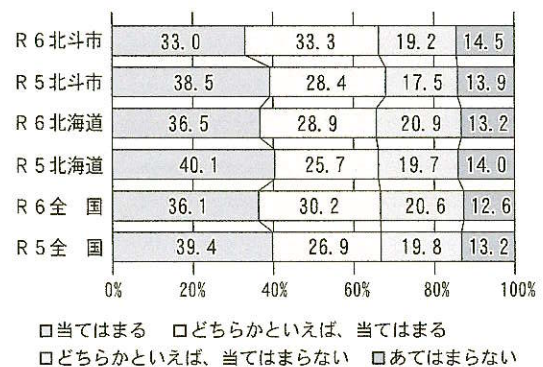
①自分には、よいところがあると思いますか？



④前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか？



③将来の夢や目標を持っていますか？



中学校3校の平均正答率 (%)

	国語	数学	合計
A	54	44	98
B	50	46	96
C	59	48	107

※各校の正答率は国が公表した整数値

①「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒の割合は、全国・全道を上回っています。

②過去の調査でも、いじめは絶対いけないという意識は、小学生と同様、非常に高いものでありました。今年度も「当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国・全道を上回りました。しかし、否定的な意見を持っている生徒もわずかにみられることは課題です。

③「将来の夢や目標を持っている」ことに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合が若干減少しました。全国・全道との差はありませんでした。

④普段の授業の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用している生徒の割合が、全国・全道に近づいてきました。小学校と同様に、より有効な活用を進めることが重要です。

※その他、「朝食を毎日食べている生徒の割合」は、全国(79・1%)・全道(76・0%)より低く、北斗市74・5%(昨年73・0%)でした。昨年度の割合よりは増えています。

今年度の「普段(月曜日から金曜日)、一日あたり一時間以上家庭学習に取り組む生徒の割合」は、北斗市48・8%(昨年63・6%)、全国64・3%(昨年65・8%)、全道57・0%(昨年59・0%)であり、昨年度を下回るとともに、全国・全道も下回りました。

3 学力向上の取組

○小学校同様、中学校でも明らかになった課題を解決するため、結果を分析し、改善に取り組んでいます。

【課題解決・改善に向けた取組】

①学習内容の確実な習得を目指して

- ・習熟度別の少人数グループによる授業や理解度に合わせた授業を実施する。
- ・複数体制(TT)による理解の程度に応じた指導を工夫する。
- ・3K(考える・会話する・行動する)授業を行う。

- ・小テストやチャレンジテストにより、基礎・基本の定着度を確認し、早期に補充指導を行う。

- ・生徒主体となるため、学習過程に「考える場」「判断する場」「行動する場」を位置付けて指導する。

- ・生徒による授業評価(アンケート)を実施し、それに基づいて改善事項を明確にして実践する。

- ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、「授業アイデア例」を活用する。
- ・生徒の苦手意識の改善・克服を目指す「記述式の答え方に慣れる」ためのワークシートを活用したり、定期テストの回答方法を工夫したりする。

②生徒の学習意欲向上のために

- ・シラバス(計画と振り返り)を作成・活用し、「目標」と「何ができるようになるか」を生徒と共有しながら見通しをもって学習活動を進める。

③ICT機器を活用して

- ・多様な考え方を共有する授業を行う。
- ・実技教科において、生徒の活動を動画撮影して修正したり、実技課題を撮影して蓄積したりする。

- ・通常の学習と家庭学習をつなげた課題を提示するなど、家庭学習や学習習慣の確立に向けて指導する。

④その他の取組

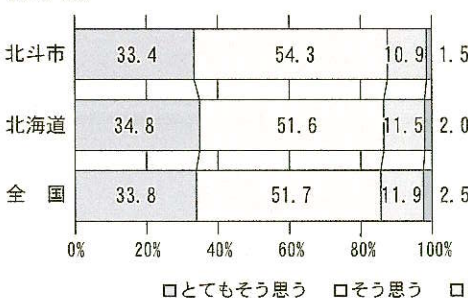
- ・語彙獲得を目指し、短時間での熟語や漢字練習を実施する。
- ・朝読書を行う。
- ・学習環境の整備を行う。

【二人一台端末の活用について】

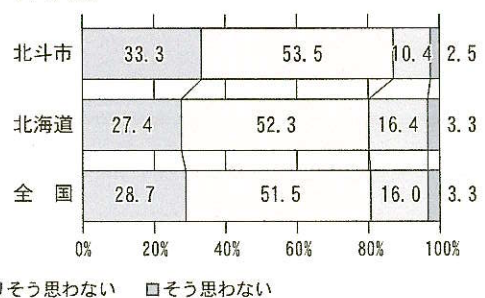
- 一人に一台整備されているICT端末に関する設問が設けられています。特に、今年度からは、学習活動の中で課題解決や発表・表現する場面での「ICT機器活用の効力感」に視点を当てた設問が複数追加されました。

前年度までに受けた授業の中で、タブレットなどのICT機器を活用することについて、どのくらい当てはまりますか？(①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる)

【小学校】



【中学校】



子どもたちの健やかな成長のために

○今年度の調査で、北斗市の子どもたちは、全ての教科で、全国・全道平均を下回りました。各学校では、こうした調査結果を重く受けとめ、実施学年の学力の保証と学校全体の学力向上に向けて取り組んでいるところです。質問紙調査で、「学習した内容についてよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えている児童生徒の割合が、前年度を上回りました。復習や繰り返し学習に積極的に取り組む姿が見られます。学校は、学力向上のため、これらに対する支援の充実にも努めてまいります。

○小学生は、「人の役に立つ人間になりたい」「友達関係に満足している」という回答が全国・全道と同じように高い割合を示しています。また、中学生は、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするためにかかしてみたい」という回答が、全国・全道を上回っています。このように、北斗市の子どもたちは、心豊しく、前向きに頑張っています。

○そんな北斗市の子どもたちを心豊かに育んでいくため、各ご家庭におかれましては、子どもたちが安心して学習できる環境を、市民の皆様におかれましては、温かい励ましをお願いいたします。